

未来のたねをまく会社

# SUZUKA 株式会社スズカ未来



エントランス



プロマーケット津店外観



本社社屋

「大切な人のために大切な食品を包むこと」から始まり、「食べ物の品質を守りおいしさを伝えること」へ

## 食品包装業からの始まり

株式会社スズカ未来は、1948年に現社長の祖父である末松正重氏が「末松経木店」として創業した。経木（きょうぎ）とは松などの木材を紙のように薄く削ったもので、食品の包装資材として一般的に使われたものである。

1964年に組織を法人化するとともに、所在地名をとって「鈴鹿経木有限会社」、75年に

「鈴鹿包装資材株式会社」へと社名を変更した。

この間、包装資材の主流は、経木から化成品へと変化しつつあり、同社への需要の先細りは目に見えていた。

そのような状況の中で、正重氏はライバルである化成品メーカーに、自身の販路を提供するという大胆な戦略をとった。先発して販路を持つ経木メーカーの同社に着目した化成品メー



代表取締役社長 末松 正裕氏

### 企業概要

所在地	鈴鹿市国府町7678番地7 TEL:059-378-0390 FAX:059-370-0494
創業	1948年(昭和23年)
資本金	67,800千円
従業員数	218名
事業内容	食品資材販売／食品包装用品・機器販売／食品検査・食品安全コンサルティング／食品販売
URL	<a href="http://www.suzukamirai.jp/">http://www.suzukamirai.jp/</a>
関連会社	(株)タスカル (株)ロジカルアイ (合)みらいあい 三桜アサヅマ商事(株) (株)桔梗屋



ものづくり館



デザイナーとの打ち合わせ

カーの要請に応えたものであるが、普通に考えると自らの首を絞めるような行為といえる。

しかし、今後、包装資材の主力は化成品になると考え、自らは販売に業務の主軸を置くとの決意からの行動であった。この時の柔軟な発想が功を奏し、その後の同社の発展へと結びついている。

更に1993年には現社長の父である前社長、末松正守氏が「株式会社スズカコーポレーション」と変更した。社名から包装資材を無くしたが、今後の業務内容の変化を見越した社名変更である。

一方、1964年以来変わらないものは「スズカ」を名前に入れていることである。所在地である鈴鹿、お客様から親しまれているスズカさんとの呼び名へのこだわりである。

### 食にかかわる総合企業へ

1997年に本社物流センターを建設、同年食品安全技術研究所を開設する。2000年、業務用食品食材と消耗品の通信販売を行うグループ会社「株式会社



社タスカル」、11年には工業部門を分社化し「株式会社ロジカルアイ」の設立へと続き、同社は、食品関連総合企業へと進化していった。

2015年には現社名である「株式会社スズカ未来」に社名変更、翌年には本社事務所を新設した。

創業の地鈴鹿への感謝と敬意を表し「スズカ」とし、また次の世代に向け、事業や社員など「未来の種」をまき続けて行く想いを込めて「スズカ未来」と名付けた。

同社は、食品に携わるすべてのことを事業領域とし、食品製造

業↓流通卸売業↓小売業↓サービス業↓消費者までの、それぞれに事業テーマを持って営業販売手法を展開し、各業種のお客様に役立つことを目標としている。

販売手法は訪問販売、店舗販売、通信販売、代理店販売の4つを軸に、時々の環境変化を真正面から受け止め、常に変化を続けている。

### 70周年、「ものづくり館」開設

創業70周年を迎えた2018年には、10月に末松正裕氏が社長に就任し、食品



マイラボ食品検査センター



レンタルキッチン「ワンデイキッチン」

ものづくりを行う人々に向けた課題解決の体験型ショールーム「ものづくり館」を開設した。ここではものづくりや商品づくりを「より良く、最短で、簡単に」かなえることを目的とし、3つの機能を提供している。

1つ目の機能は商品開発である。小型の高温高圧調理機を使い、長期保存が可能なレトルト食品づくりを実験し、商品開発のお手伝いを行う。今後は冷凍や粉末などの長期保存方法まで実験領域を増やす予定である。

2つ目の機能は、食品の安全性のための検査機能である。開発された商品の安全性や衛

生面のチェック、賞味期限設定や食品表示の表記などを行い商品を安心して流通できるように検査し、製造工程環境へのアドバイスも行っている。

また、異物混入などの消費クレームは納入相手先に対して報告書作成を即日行える体制をとっている。検査機関であれば結果が出るまで相当時間を要することから、同社の機能は非常に有効である。

3つ目は販売促進のためのパッケージデザイン機能である。

消費者の購買意欲を高める手段としてパッケージデザインは非常に重要である。食品は食べなければおいしさや良さがわからないため、作り手の想いや商品の良さを買い手がイメージできるデザインが重要になる。ものづくり館では、「最速試作」をテーマに、即日で試作品の作成を行っている。

同社のデザイナーが実際に関わったパッケージも展示されており課題解決やアイデアの発見に役立つスペースである。

このように、商品開発↓安全性のチェック↓販売促進のための包装企画をワンストップで行えるのが「ものづくり館」である。

### スズカから食の未来へ

「スズカ未来」が、経木による食品包装からスタートし、食品すべてに携わる企業へと進化してきた同社の変遷すべてを表している存在になっている。

同館の役割は、現在食品のものづくりを行っている人のサポートだけではなく、

これからの食品ものづくりの創り手の創出も大事な役割と考えている。

6次産業化を謳った食品ものづくり企業が増加する中、「美味いものは作れるけれども商品化の仕方がわからない」、そんな人々の想いをカタチにできるサポートが使命だと考えている。そのために、同社では、自社資源を最大限に活用したセミナーや体験会を実施し、集客販売の仕掛けと仕組みづくりを行っている。また、専門性や質の高い人材育成にも取り組んでおり、各社



コミュニティレンタルキッチン「みらいえ」

員は食品づくりのアドバイザーとなるよう勉強を続けているという。

しかし、人の心は技術だけではなかなか動かさない。末松社長は「人の心をデザインできるような驚きと感動を与える仕掛けと仕組みが必要。我々が目指す食品づくりのアドバイザーとは、魔法使いのような存在だ」と話す。

スズカ未来は、社名の通り、未来に向かって新領域を創り出し、おいしく安全で、創り手も食べる側も満足させられる不思議な魔法をかけ続けていくことだろう。

文〓経営コンサルティング部

川合公二